

## 子育て・子育てのキーワードは、“習慣の向上”

教育委員会では、子どもの心身ともに豊かで健やかな成長を願い、多治見市型幼保小中一貫教育の柱として「習慣向上プロジェクトたじみプラン（H20～）」、「子どもの健康・体力づくり たじみプラン（H24～）」を立ち上げ、それぞれに大学教員や保護者代表、学校関係者などを含めた推進委員会を設置して取り組みを進めてきました。

また、平成30年度からは、2つのプランを継続しつつ、“よりよい習慣づくり”という観点から推進委員会をひとつにまとめ、「子どもの習慣向上推進委員会」において教育委員会の取り組みについて協議いただいています。

本紙は、これまで年3回おとどけしてきた『体トレ通信』に代わり、生活習慣・学習習慣・運動習慣などについて、幅広く保護者のみなさまにお知らせするものです。子育て・子育てのキーワードである“習慣の向上”について、教育委員会の取り組みや子育てに役立つ情報をお届けしていきますので、ぜひご一読ください！

**<本号のラインナップ>**

- ◇学習習慣が支える子どもの自己実現 ～全国学力・学習状況調査より～
- ◇運動を「好き」「楽しい」「得意」と感じられるように  
～全国体力・運動能力、運動習慣等調査より～
- ◇よい習慣の定着・維持は、生活リズムの見直しから！  
名古屋学院大学スポーツ健康科学部 中野貴博 教授
- ◇“習慣向上”わが子の育ち 見とり表  
～自立と共生をめざし、成長の段階にそって身に付けたい習慣～

## 学習習慣が支える子どもの自己実現

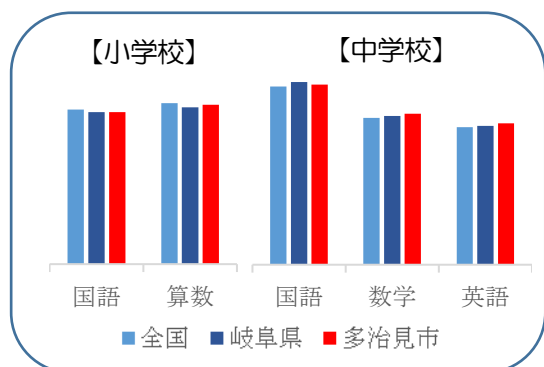
～令和元年度 全国学力・学習状況調査より～



平成31年4月18日に小学校6年生及び中学校3年生を対象とした全国学力・学習状況調査が実施されました。調査を行った教科「小学校 国語・算数」、「中学校 国語・数学・英語」の多治見市の平均正答率は、全国や岐阜県とほぼ同等かやや上回っていました。また、質問紙調査（児童生徒）から多治見市の子ども達の家庭学習の時間や読書をする時間も全国や岐阜県と同等で、自分で計画を立てて勉強することができる傾向にありました。

一方で、算数や数学の「根拠を明確にして、式や言葉を用いて説明すること」や、小学校国語で「語句の意味を伴って漢字を理解すること」などが課題として見えてきました。また、質問紙調査（児童生徒）では「授業で学んだことを普段の生活の中で活用すること」に弱さが見られました。

平均正答率の結果



これらのことから、学校に日課があるように、家庭で時間や場所を決めて計画的に学習や読書に取り組む習慣を身に付けていることが、基礎的・基本的な学力の定着を支えているといえます。

また、今後、学力を向上させていくためには、学校で仲間と説明し合いながら一緒に課題を解決するような学習をしたり、家庭で子どもが学校で学習したことを使って自分で調べるような学習をしたりすることが有効であると考えられます。

家庭と学校が協力し、子どもが望ましい習慣を身に付け、自立や個性豊かな自己実現に向かっていくことができるよう、今後ご理解とご協力をお願いいたします。